



2023年12月期 第1四半期決算短信〔IFRS〕（連結）

2023年5月15日

上場会社名 株式会社ジーエヌアイグループ 上場取引所 東
 コード番号 2160 URL <https://www.gnipharma.com>
 代表者 (役職名) 取締役代表執行役社長兼CEO (氏名) イン・ルオ
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役CF0 (氏名) 鈴木 勤一郎 (TEL) 03-6214-3600
 四半期報告書提出予定日 2023年5月15日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2023年12月期第1四半期の連結業績（2023年1月1日～2023年3月31日）

（1）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上収益		営業利益		税引前利益		四半期利益		親会社の所有者に帰属する四半期利益		四半期包括利益合計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年12月期第1四半期	4,206	6.9	397	△17.0	△64	—	△341	—	△2	—	△57	—
2022年12月期第1四半期	3,933	1.6	478	△38.1	347	△48.6	72	△83.4	351	△18.8	1,101	△9.2

	基本的1株当たり 四半期利益	希薄化後1株当たり 四半期利益
	円 銭	円 銭
2023年12月期第1四半期	△0.06	△0.06
2022年12月期第1四半期	7.40	7.36

（2）連結財政状態

	資産合計	資本合計	親会社の所有者に 帰属する持分	親会社所有者 帰属持分比率	1株当たり親会社 所有者帰属持分
	百万円	百万円	百万円	%	円 銭
2023年12月期第1四半期	34,070	19,786	21,205	62.2	446.56
2022年12月期	33,906	19,810	20,969	61.8	441.59

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年12月期	—	—	—	0.00	0.00
2023年12月期	—	—	—	—	—
2023年12月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年12月期の連結業績予想（2023年1月1日～2023年12月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上収益		営業利益		税引前利益		当期利益		親会社の所有者に 帰属する当期利益		基本的1株当たり 当期利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	17,100～ 20,900	△1.8～ 20.0	700～ 1,400	△49.2～ 1.6	△100～ 200	△113.0～ △74.0	△500～ 0	—	1,100～ 1,400	182.9～ 260.1	22.30～33.41

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 ー社 （社名）除外 ー社 （社名）

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

- ① IFRSにより要求される会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年12月期1Q	47,487,843株	2022年12月期	47,487,843株
② 期末自己株式数	2023年12月期1Q	1,391株	2022年12月期	1,391株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年12月期1Q	47,486,452株	2022年12月期1Q	47,461,630株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

四半期決算短信は公認会計士または監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料「1-(4)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。また、当社は、2023年5月18日に、機関投資家・アナリスト向けの四半期決算説明会を開催する予定です。その説明会資料は、開催後速やかに当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 経営成績・財政状態に関する分析	2
(1) 経営成績に関する分析	2
(2) 財政状態に関する分析	3
(3) 研究開発活動	4
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	6
2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記	7
(1) 要約四半期連結財政状態計算書	7
(2) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書	8
要約四半期連結損益計算書	8
要約四半期連結包括利益計算書	9
(3) 要約四半期連結持分変動計算書	10
(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書	12
(5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項	13
(継続企業の前提に関する注記)	13
(作成の基礎)	13
(セグメント情報)	13
(重要な後発事象)	15

1. 経営成績・財政状態に関する分析

（1）経営成績に関する分析

当第1四半期連結累計期間においては、中国におけるロックダウンの突然の解除とそれによる感染の爆発的な拡大、世界的なインフレ率の高まり、資本市場の動揺などの様々な難題が続く中、株式会社ジーエヌアイグループ（以下「当社」）およびその関連会社（以下合わせて「当社グループ」）の主力事業、中国におけるアイスーリュイを中心とする医薬品事業および米国における医療機器（生体材料）事業は、前年同期比増の売上収益を達成し、円安の影響もあり、堅調な業績を残すことができました。その反面、インフレーションによる原材料の高騰、中国における営業・マーケティング活動への投資・臨床開発活動の更なる進展に伴う研究開発費の増加により、前年同期比で営業減益となりました。更に、米国子会社の資金調達に関わる金融費用の増加により利益が圧迫される状況が続いていますが、日・米・中の3地域で十分な手元流動性を確保しており、今後の成長に向けて、健全な財務体質を確保しております。

当社グループ主要子会社である北京コンチネント薬業有限公司（以下「北京コンチネント」）は、2022年末から2023年初頭における中国での新型コロナウイルス感染拡大の影響から逃れることはできませんでしたが、それでも第1四半期の売上収益は現地通貨ベースでも前年同期を上回り、主力のアイスーリュイの販売は引き続き堅調に推移しております。次期製品の有力な候補であるF351の中国における臨床試験は、現地での新型コロナウイルス感染蔓延の影響により当初の予定より約3カ月の遅れが出ておりますが、足元では感染状況も落ち着き、当初の予定に追いつくため、臨床試験実施先の追加などの対策を進めております。

2022年12月に開示しました、米国Nasdaq市場上場のCatalyst Biosciences, Inc.（以下「CBIO」）に関しては、最初の取引であるF351の中国以外の権利を譲渡する取引1は完了いたしました。現在は、当社グループが保有する北京コンチネント株式をCBIOに現物出資し、その対価としてCBIO株式を当社グループが受領する取引2に向け、CBIOが株主総会の準備などを進めております。（この取引の詳細については、2022年12月27日の適時開示と2022年12月30日及び2023年1月18日開示のQ&Aをご参照ください）

米国で生体材料事業に携わるBerkeley Advanced Biomaterials LLC（以下「BAB」）も、現地通貨ベースでの第1四半期売上収益は前年同期とほぼ同等であり、堅調に推移しております。2022年11月に出資した中国における関連会社OsDerma Medical Inc.（以下「OsDerma」）も、アジアでの事業拡大に向けて準備を進めております。また、2022年12月に出資した子会社マイクレン・ヘルスケア株式会社も順調に事業を推進しております。

米国および中国を中心に研究開発に特化している子会社Cullgen Inc.（以下「Cullgen」）は、独自の標的タンパク質分解誘導技術プラットフォームuSMITE[™]を活用した創薬に引き続き邁進しております。Cullgenの中国法人は、同社最初のTRK分解剤を使用した抗がん剤候補の中国における臨床試験の被験者登録に向けて、準備を進めております。同時に、他の複数のプログラムについても、臨床試験申請を目指して開発を進めております。

①セグメント別の経営成績

医薬品事業

医薬品事業セグメントの売上収益とセグメント利益は、それぞれ3,606,336千円（前年同期比6.0%増）、149,207千円（前年同期比33.3%減）となりました。北京コンチネントの主力製品であるアイスーリュイの中国市場での売上収益は引き続き堅調に推移しましたが、主に中国での営業体制やマーケティング活動の強化や米国での研究開発費の増加により、セグメント利益は減少しました。

医療機器事業

医療機器事業セグメントの売上収益とセグメント利益は、それぞれ599,799千円（前年同期比12.8%増）、248,390千円（前年同期比2.7%減）となりました。

②販売費及び一般管理費並びに研究開発費

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間	当第1四半期連結累計期間	差額
販売費及び一般管理費	△2,458,324	△2,646,363	△188,039
人件費	△964,787	△965,876	△1,089
研究開発費	△468,870	△635,649	△166,778

当第1四半期連結累計期間の販売費及び一般管理費は、2,646,363千円（前年同期比7.6%増）となりました。この販売費及び一般管理費の増加は、主に医薬品事業セグメントの人件費および営業体制やマーケティング活動関連費用の増加によるものです。

当第1四半期連結累計期間の研究開発費は、635,649千円（前年同期比35.6%増）となりました。主に医薬品事業セグメントにおける研究開発費の増加によるものです。

③金融収益及び金融費用

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間	当第1四半期連結累計期間	差額
金融収益	54,672	49,329	△5,343
金融費用	△186,173	△239,599	△53,426

金融収益

当第1四半期連結累計期間の金融収益は、49,329千円（前年同期比9.8%減）となりました。この金融収益の減少は、主に為替差益の減少によるものです。

金融費用

当第1四半期連結累計期間の金融費用は、239,599千円（前年同期比28.7%増）となりました。この金融費用の増加は、主にCullgenの資金調達に関する現金支出を伴わない利息費用の増加によるものです。

(2) 財政状態に関する分析

連結財政状態

(単位：千円)

	前連結会計年度	当第1四半期連結会計期間	差額
資産合計	33,906,981	34,070,943	163,961
負債合計	14,096,013	14,284,812	188,798
資本合計	19,810,968	19,786,131	△24,837

資産合計

当第1四半期連結会計期間における資産合計は、34,070,943千円（前連結会計年度末比0.5%増）となりました。

負債合計

当第1四半期連結会計期間における負債合計は、14,284,812千円（前連結会計年度末比1.3%増）となりました。この負債の増加は、主にCullgenの資金調達に関する現金支出を伴わない利息費用の追加計上によるものです。

資本合計

当第1四半期連結会計期間における資本合計は、19,786,131千円（前連結会計年度末比0.1%減）となりました。

連結キャッシュ・フロー

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間	当第1四半期連結累計期間	差額
営業活動によるキャッシュ・フロー	425,628	709,959	284,330
投資活動によるキャッシュ・フロー	△298,202	△1,239,778	△941,575
財務活動によるキャッシュ・フロー	△331,129	△51,798	279,331

営業活動によるキャッシュ・フロー

当第1四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、709,959千円の収入（前年同期は、425,628千円の収入）となりました。主な収入は、中国における営業債権及びその他の債権の回収によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フロー

当第1四半期連結累計期間の投資活動によるキャッシュ・フローは、1,239,778千円の支出（前年同期は、298,202千円の支出）となりました。主な支出は、中国における長期性預金の取得及び工場拡張に係る有形固定資産の取得によるものです。

財務活動によるキャッシュ・フロー

当第1四半期連結累計期間の財務活動によるキャッシュ・フローは、51,798千円の支出（前年同期は、331,129千円の支出）となりました。主な支出は、中国におけるリース負債の返済によるものです。

(3) 研究開発活動

〔研究活動〕

当社グループの創薬研究では、Cullgenを中心に革新的な新規開発候補化合物（NCE）の開発を目指しています。Cullgenは、がん、痛み、及び自己免疫疾患に対する酵素及び非酵素タンパク質を標的とした複数の新規化合物を含む創薬パイプラインの拡充のための研究開発を進めております。

〔開発活動〕

■アイスーリュイ〔中国語：艾思瑞®、英語：ETUARY®（一般名：ピルフェニドン）〕－北京コンチネント

糖尿病腎症（DKD）

アイスーリュイの適応を糖尿病腎症に拡大する臨床試験は、第Ⅰ相を完了しておりますが、次フェーズ臨床試験の規制上の方向性を定めるため、クラス2会議（臨床試験に関する技術的な会議）の申請を中国のCDE（Center for Drug Evaluation、医薬品評価センター）に提出し、今後の進め方を協議しております。

結合組織疾患を伴う間質性肺疾患（SSc-ILDおよびDM-ILD）

アイスーリュイの適応を全身性硬化症（強皮症、SSc-ILD）と皮膚筋炎（DM-ILD）の2つに拡大するため、第Ⅲ相の臨床試験を継続しておりますが、現時点ではじん肺への適応拡大や、F351やF573の臨床試験を優先しております。

じん肺治療薬（Pneumoconiosis, PD）

アイスーリュイの適応をじん肺に拡大する臨床試験は、2022年6月から第Ⅲ相に入っております。2022年末から2023年初頭の中国における新型コロナウイルス蔓延の影響が多少ありましたが、現時点では被験者の登録も再開しております。

■F351（肝線維症等治療薬）－北京コンチネント

F351（一般名：ヒドロニドン）は肝線維症向け治療薬候補として、北京コンチネントの医薬品ポートフォリオにおける重要な創薬候補化合物であり、他の世界の主要医薬品市場へ臨床開発活動を拡大する戦略の重要な部分を占めております。F351は、アイスーリュイの誘導体である新規化合物であり、内臓の線維化に重要な役割を果たす肝星細胞の増殖及び、TGF-β伝達経路を阻害します。

F351は、中国のCDEとの協議を経て、2021年3月にNMPAより肝線維症の画期的治療薬の指定を受けました。これにより、F351についてのCDEとの協議が優先的、かつその協議結果を生かした臨床試験を進めることが可能となっております。その後、2021年7月29日に中国において第Ⅲ相臨床試験の許可申請が承認され、2022年1月に第Ⅲ相臨床試験を開始いたしました。F351の臨床試験も、2022年末から2023年初頭の中国における新型コロナウイルス蔓延の

影響がありましたが、現時点では被験者の登録も再開しており、更に、当初の予定に追いつくため、臨床試験サイトの追加などの対策を進めております。

なお、F351の権利は、中国においては北京コンチネントが保持しておりますが、日本、豪州、カナダ、米国及び欧州各国を含む中国以外におけるF351の権利は、CBIOに譲渡いたしました（この取引の詳細については、2022年12月27日の適時開示と2022年12月30日及び2023年1月18日開示のQ&Aをご参照ください）。

北京コンチネントは、中国におけるF351の製造、開発、販売の権利を保有しており、F351の中国以外のそれらの権利は、2022年12月26日にCBIOに売却されました。CBIOは、2023年後半に米国で非アルコール性脂肪肝炎（NASH）の治療薬として第II相臨床試験開始申請（IND）を行う予定です。NASHは、非アルコール性脂肪性肝疾患（NAFLD）の重症型であり、肝臓の炎症と線維化を特徴とし、肝硬変、肝不全、肝細胞がん（HCC）、死へと進行することがあります。現在、NASHの治療薬として日米欧で承認された製品はありません。CBIOは、出血を伴わないNASHの進行した肝線維化を有する成人被験者を対象に、ヒドロニドン・カプセルを1日360mg（1日3回120mg（TID）投与）、24週間経口投与した場合の安全性、忍容性、薬物動態（PK）および薬力学（PD）を評価する無作為、二重盲検、プラセボ対照、並行群間比較試験の第II a相、概念実証（Proof of Concept: PoC）の臨床開発を開始することを計画しています。提案されている第II a相試験の主な目的は、本剤が奏功した場合のより包括的な第II/III相臨床試験の基礎として、NASH線維症の被験者におけるヒドロニドンのPoC結果を早期に得ることです。本試験では、少人数の被験者（合計60名）を対象に、ヒドロニドンまたはプラセボを2：1の割合で投与する予定です。本試験では、薬物服用によるNASH線維化の評価に関連する一連の非侵襲的な生化学および画像バイオマーカーのベースラインからの変化、およびヒドロニドンの抗線維化作用の機序を評価する予定です。本試験では、採血を行い、初期集団のPKおよびPK/PD関係を評価し、NASH線維症を対象とした今後の臨床試験におけるヒドロニドン開発の参考にする予定です。さらに、本試験では、疾患特有の患者報告アウトカム（PROs: Patient-reported outcomes）として、実績のある慢性肝疾患アンケート（CLDQ: Chronic Liver Disease Questionnaire）のNASH版を導入し、NASHによる線維化が進行した被験者の生活の質（QOL: Quality of Life）に対するヒドロニドン治療の影響について、患者報告データを収集する予定です。

■F573（急性肝不全（ALF）・慢性肝不全急性時（ACLF）治療薬）－北京コンチネント

F573はアイスーリュイ及びF351に次ぐ3番目の創薬候補化合物として、カスパーゼを阻害する可能性を持つ強いジペプチド化合物であり、急性肝不全（ALF）や慢性肝不全の急性増悪（ACLF）に関連して発生するアポトーシスや炎症反応に重要な化合物です。

F573に関しましては、当社から2023年3月28日に開示いたしましたとおり、第II相臨床試験を開始いたしました。

■CG001419（TRK分解剤）－ Cullgen

当社から2022年8月9日に「連結子会社CullgenのTRK分解剤に関するIND申請承認のお知らせ」で開示いたしましたとおり、Cullgenは中国のNMPAから固形がん治療用途でのトロポミオシン受容体キナーゼ（TRK）分解剤開発候補化合物であるCG001419のIND承認を取得いたしました。CG001419は、非小細胞肺癌や乳がん、膵臓がん等を含む多くの固形がんで見出される神経栄養性チロシン受容体キナーゼ（NTRK）融合遺伝子にコードされるTRKタンパク質異常の進行がんの治療に使用が期待される、ファースト・イン・クラスの選択的かつ経口剤となり得る標的タンパク質分解誘導作用を持つ開発候補化合物です。

2022年末から2023年初頭にかけての中国における新型コロナウイルス流行を受け、臨床試験の開始が想定より遅れておりますが、Cullgenは、中国の医師や病院と緊密に協力しながら中国での第I相臨床試験の準備を進めており、2023年4月26日に、中国人類遺伝資源局（HGRAC）による承認を取得いたしました。また、米国FDA（食品医薬品局）との米国での臨床試験前の協議は継続しております。

（4）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループ全体としては、本会計年度も中国におけるアイスーリュイを中心とする医薬品事業と米国における生体材料事業からなる主力事業は堅調に推移することを想定しております。但し、新型コロナウイルス感染の再拡大、インフレーションの増大、資本市場の混乱などが当社グループの業績や研究開発活動に甚大な影響をもたらす可能性がありますので、引き続きマクロ情勢、資本市場の状況も注視して参ります。

当社グループの主要子会社である北京コンチネントは、営業・マーケティングおよび臨床開発活動双方において2022年末から2023年初頭における中国における新型コロナウイルス感染の急激な拡大の影響を受けましたが、足元では通常に戻りつつあります。今後は、当社グループの医薬品事業セグメント（特に北京コンチネントのアイスーリュイ）の既存ビジネスは堅調に推移し、臨床開発活動も通常のペースに戻ることを見込んでおります。

医療機器事業セグメントでは、米国でのBABによる主力事業（生体材料事業）が引き続き堅調に成長し、グループに健全なキャッシュ・フローをもたらすと予想しております。また、アジアの美容市場において、BABの生体材料技術を活用して、OsDermaのビジネスを継続的に成長させていきたいと考えております。

Cullgenは、既にIND承認を中国で取得したTRK分解薬に続き、他の複数のプログラムでINDを目指して、研究開発活動を引き続き推進中です。

2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 要約四半期連結財政状態計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年3月31日)
資産		
非流動資産		
有形固定資産	3,951,217	4,207,317
使用権資産	755,167	716,186
のれん	6,047,721	6,086,379
無形資産	2,928,800	3,125,693
持分法で会計処理されている投資	622,476	352,436
繰延税金資産	184,171	183,572
その他の金融資産	2,270,162	3,051,915
非流動資産合計	16,759,717	17,723,503
流動資産		
棚卸資産	1,693,412	1,708,463
営業債権及びその他の債権	3,122,463	2,543,264
その他の金融資産	196,543	198,805
その他の流動資産	1,085,535	1,300,056
現金及び現金同等物	11,049,310	10,596,849
流動資産合計	17,147,264	16,347,440
資産合計	33,906,981	34,070,943
負債及び資本		
非流動負債		
リース負債	157,744	118,980
繰延税金負債	546,790	582,730
その他の金融負債	9,706,958	9,990,873
その他の非流動負債	181,027	143,228
非流動負債合計	10,592,520	10,835,812
流動負債		
営業債務及びその他の債務	949,612	609,280
借入金	200,000	200,000
リース負債	179,611	175,131
未払法人所得税	1,179,254	1,105,435
その他の金融負債	7,225	7,420
その他の流動負債	987,788	1,351,730
流動負債合計	3,503,492	3,448,999
負債合計	14,096,013	14,284,812
資本		
資本金	10,893,070	10,894,908
資本剰余金	6,233,386	6,235,224
自己株式	△756	△756
利益剰余金	696,360	693,486
その他の資本の構成要素	3,147,631	3,382,697
親会社の所有者に帰属する持分合計	20,969,692	21,205,560
非支配持分	△1,158,724	△1,419,429
資本合計	19,810,968	19,786,131
資本及び負債の合計	33,906,981	34,070,943

(2) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書

要約四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年3月31日)
売上収益	3,933,490	4,206,135
売上原価	△549,441	△573,357
売上総利益	3,384,048	3,632,777
販売費及び一般管理費	△2,458,324	△2,646,363
研究開発費	△468,870	△635,649
その他の収益	39,628	132,214
その他の費用	△17,555	△85,381
営業利益	478,926	397,598
金融収益	54,672	49,329
金融費用	△186,173	△239,599
持分法による投資損失	—	△272,262
税引前四半期利益 (△損失)	347,425	△64,934
法人所得税費用	△275,136	△276,810
四半期利益 (△損失)	72,289	△341,745
四半期利益 (△損失) の帰属		
親会社の所有者	351,014	△2,874
非支配持分	△278,725	△338,870
1株当たり四半期利益 (△損失)		
基本的1株当たり四半期利益 (△損失) (円)	7.40	△0.06
希薄化後1株当たり四半期利益 (△損失) (円)	7.36	△0.06

要約四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年3月31日)
四半期利益 (△損失)	72,289	△341,745
その他の包括利益		
純損益にその後に振替えられる可能性のある項目		
在外営業活動体の換算差額	1,029,148	282,489
持分法適用会社におけるその他の包括利益に対する持分	—	2,222
その他の包括利益合計	1,029,148	284,712
四半期包括利益合計	1,101,437	△57,033
四半期包括利益の帰属		
親会社の所有者	1,355,849	203,671
非支配持分	△254,412	△260,704

(3) 要約四半期連結持分変動計算書

前第1四半期連結累計期間（自 2022年1月1日 至 2022年3月31日）

(単位：千円)

	親会社の所有者に帰属する持分						
	資本金	資本剰余金	自己株式	利益剰余金	その他の資本の構成要素		
					新株予約権	在外営業活動 体の換算差額	合計
2022年1月1日残高	10,884,332	6,224,649	△645	307,535	543,445	900,992	1,444,437
四半期利益	—	—	—	351,014	—	—	—
その他の包括利益	—	—	—	—	—	1,004,835	1,004,835
四半期包括利益合計	—	—	—	351,014	—	1,004,835	1,004,835
株式報酬取引	—	—	—	—	105,700	—	105,700
所有者との取引額合計	—	—	—	—	105,700	—	105,700
2022年3月31日残高	10,884,332	6,224,649	△645	658,549	649,145	1,905,827	2,554,972

	親会社の所有者に帰属する持分		
	合計	非支配持分	資本合計
2022年1月1日残高	18,860,309	405,936	19,266,246
四半期利益	351,014	△278,725	72,289
その他の包括利益	1,004,835	24,313	1,029,148
四半期包括利益合計	1,355,849	△254,412	1,101,437
株式報酬取引	105,700	—	105,700
所有者との取引額合計	105,700	—	105,700
2022年3月31日残高	20,321,859	151,524	20,473,384

当第1四半期連結累計期間（自 2023年1月1日 至 2023年3月31日）

（単位：千円）

	親会社の所有者に帰属する持分						
	資本金	資本剰余金	自己株式	利益剰余金	その他の資本の構成要素		
					新株予約権	在外営業活動 体の換算差額	合計
2023年1月1日残高	10,893,070	6,233,386	△756	696,360	824,192	2,323,439	3,147,631
四半期利益（△損失）	—	—	—	△2,874	—	—	—
その他の包括利益	—	—	—	—	—	206,546	206,546
四半期包括利益合計	—	—	—	△2,874	—	206,546	206,546
新株の発行	1,837	1,837	—	—	—	—	—
新株予約権の失効	—	—	—	—	△21,725	—	△21,725
株式報酬取引	—	—	—	—	50,245	—	50,245
所有者との取引額合計	1,837	1,837	—	—	28,520	—	28,520
2023年3月31日残高	10,894,908	6,235,224	△756	693,486	852,712	2,529,985	3,382,697

	親会社の所有者に帰属する持分		
	合計	非支配持分	資本合計
2023年1月1日残高	20,969,692	△1,158,724	19,810,968
四半期利益（△損失）	△2,874	△338,870	△341,745
その他の包括利益	206,546	78,166	284,712
四半期包括利益合計	203,671	△260,704	△57,033
新株の発行	3,675	—	3,675
新株予約権の失効	△21,725	—	△21,725
株式報酬取引	50,245	—	50,245
所有者との取引額合計	32,195	—	32,195
2023年3月31日残高	21,205,560	△1,419,429	19,786,131

(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期利益 (△損失)	347,425	△64,934
減価償却費	115,034	136,501
営業債権及びその他の債権の増減額	△390,520	634,319
営業債務及びその他の債務の増減額	△5,778	△355,840
棚卸資産の増減額	△47,536	14,720
賞与引当金増減額	2,127	6,167
金融収益及び金融費用	174,349	190,440
その他	335,441	420,397
小計	530,542	981,771
利息の受取額	12,351	22,066
利息の支払額	△7,169	△5,516
法人所得税の支払額	△110,096	△288,361
営業活動による正味キャッシュ・フロー	425,628	709,959
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の純増減額	—	△771,072
有形固定資産の取得による支出	△71,314	△267,660
無形資産の取得による支出	△228,248	△198,631
差入保証金・敷金の増加による支出	△253	△3,599
差入保証金・敷金の減少による収入	428	—
貸付金の回収による収入	1,185	1,185
投資活動による正味キャッシュ・フロー	△298,202	△1,239,778
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金増減額	△300,000	—
リース負債の返済による支出	△25,274	△51,798
その他	△5,855	—
財務活動による正味キャッシュ・フロー	△331,129	△51,798
現金及び現金同等物に係る換算差額	639,300	129,156
現金及び現金同等物の増減額	435,597	△452,460
現金及び現金同等物の期首残高	14,352,133	11,049,310
現金及び現金同等物の四半期末残高	14,787,730	10,596,849

(5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(作成の基礎)

(1) IFRSに準拠している旨の事項

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して作成しております。

当社グループは、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）第1条の2に掲げる「指定国際会計基準特定会社」の要件を満たしていることから、同第93条の規定を適用しております。

本要約四半期連結財務諸表には年次の連結財務諸表で要求される全ての情報が含まれていないため、2022年12月31日に終了した連結会計年度の当社グループの連結財務諸表と併せて利用されるべきものです。

(2) 機能通貨及び表示通貨

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、当社の機能通貨である日本円を表示通貨としており、千円未満を切り捨てて表示しております。

(セグメント情報)

(1) 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち、分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、創薬及び製造販売事業である医薬品事業及び、医療機器事業を展開しております。医薬品事業では、医薬品の研究開発、製造、販売及び受託研究などを行っており、医療機器事業では、生体材料を含む医療機器の研究開発、製造及び販売を行っております。

各報告セグメントの主要製品は以下のとおりであります。

報告セグメント	会社名	主要製品
医薬品事業	株式会社ジーエヌアイグループ、北京コンチネント薬業有限公司、上海ジェノミクス有限公司、GNI Hong Kong Limited、上海ジェノミクステクノロジー有限公司、Cullgen (Shanghai), Inc.、GNI USA, Inc.、Cullgen Inc.、上海リーフ国際貿易有限公司	アイスーリュイ、医薬品開発、その他医薬品、試薬
医療機器事業	Berkeley Advanced Biomaterials LLC、マイクレン・ヘルスケア株式会社	生体材料、医療機器選任製造販売業者(DMAH) および治験国内管理人 (ICC) サービス

(2) 報告セグメントの売上収益及び損益

当社グループの報告セグメント情報は以下のとおりです。

前第1四半期連結累計期間（自 2022年1月1日 至 2022年3月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額	連結
	医薬品事業	医療機器事業	合計		
売上収益					
(1) 外部顧客への売上収益	3,401,937	531,552	3,933,490	—	3,933,490
(2) セグメント間の内部売上収益又は振替高	—	—	—	—	—
計	3,401,937	531,552	3,933,490	—	3,933,490
セグメント利益	223,638	255,288	478,926	—	478,926
				金融収益	54,672
				金融費用	△186,173
				税引前四半期利益	347,425

（注）セグメント利益は、要約四半期連結損益計算書の営業利益を用いております。

当第1四半期連結累計期間（自 2023年1月1日 至 2023年3月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額	連結
	医薬品事業	医療機器事業	合計		
売上収益					
(1) 外部顧客への売上収益	3,606,336	599,799	4,206,135	—	4,206,135
(2) セグメント間の内部売上収益又は振替高	—	22,896	22,896	△22,896	—
計	3,606,336	622,695	4,229,032	△22,896	4,206,135
セグメント利益	149,207	248,390	397,598	—	397,598
				金融収益	49,329
				金融費用	△239,599
				持分法による投資損失	△272,262
				税引前四半期利益（△損失）	△64,934

（注）セグメント利益は、要約四半期連結損益計算書の営業利益を用いております。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。